

掃出し窓の施錠の故障について

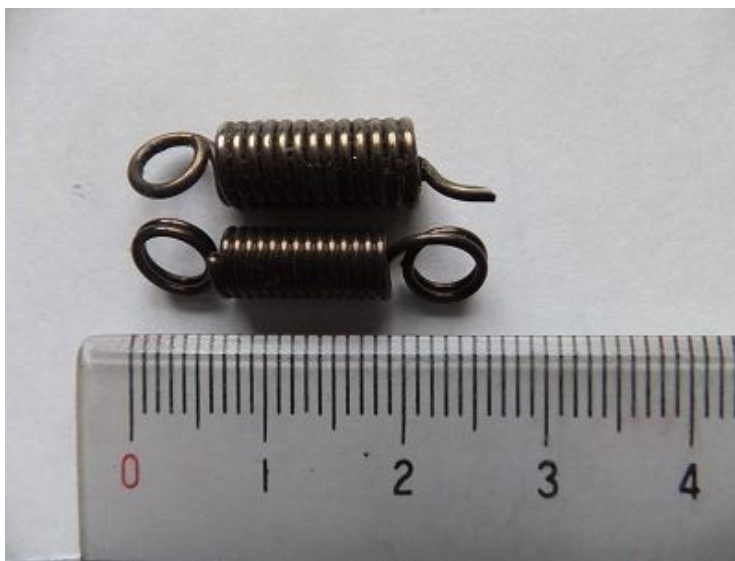
バルコニー(ベランダ)に出入りする「掃出し窓」に鍵(クレセント錠)が付いておりますが、故障すると鍵を開けてバルコニーに出て窓を閉めると、グラグラになっていたクレセント錠が「クルッ」と回転して、意図せずに施錠され閉め出されてしまった住戸が少なくないのかも知れません。



当マンションの窓は「不二サッシ」の製品が使われているかと思われます。

← クレセント錠

クレセントの故障の多くは、内部の「バネ」(スプリング)が経年劣化で破損が原因と考えられます。



上が破損したバネ
下が新品のバネ

これらのトラブルは干し物等のために出入りするバルコニーの場合は、施錠をする頻度も多くなり10年ほどで故障するようです。

修理の方法は、

- 業者に依頼する。(出張費等がかさみ工事費が割高)
- ネットで購入し自分で修理する。(型式が合わないと面倒)
- 不二サッシから取り寄せ自分で修理する。

バネ(スプリング)の取替え方法

バネが破損しても施錠することは可能ですが、交換方法は次の通りです。

1. クレセント錠をプラスドライバーで取り外す(左)
2. 取り外したクレセントの跡(右)



3. 取り外したクレセントの内部のバネが破損している。



4. 不二サッシから購入したバネ(10本単位)



5. クレセントの内部にバネを取付けるには、ラジオペンチでは難しいため太い釣り糸か、下の画像のようなヒモで引っ張り凸部に引っかけてから糸を引き抜けば良い。

なお、ハンドルを逆にしてバネを付けると施錠ができなくなるため、画像のように上下を間違えないこと。



6. クレセントを扉に固定して完了。

7. 詳細については組合事務所へお問い合わせください。 執筆者(K)